

令和4年度

大崎麦作情報 第4号

令和4年4月14日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～今後の管理のポイント～

- 収量・品質向上のために追肥を行いましょう。
- 赤かび病防除を徹底しまししょう。
- 排水対策を徹底しまししょう。

1 気象経過

- ・気温は高い期間と低い期間を繰り返し、4月上旬は寒暖差が大きくなりました。
- ・日照時間は平年並～平年より多照の期間が長く続きました。
- ・降水量はまとまった降水のあった3月第3半旬、第4半旬を除き、少雨で推移しました。また、3月第2半旬、第4半旬には降雪を記録しました。

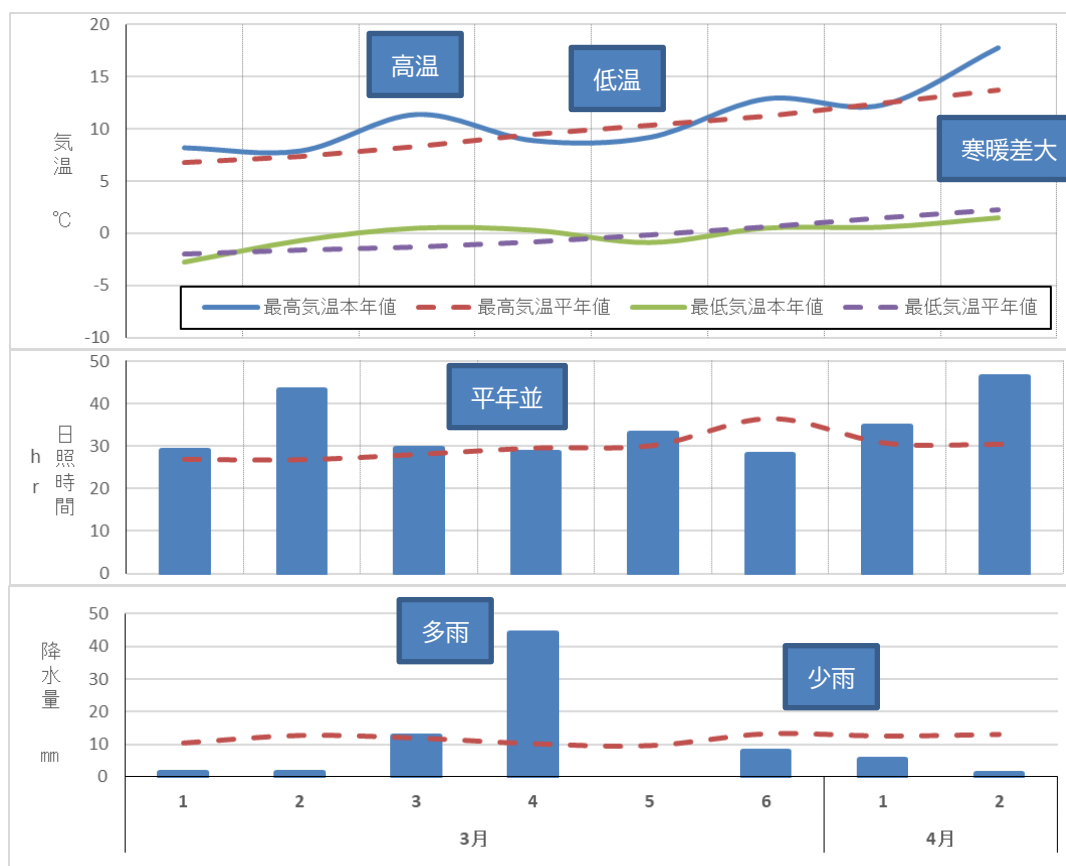


図1 気象経過 (アメダス古川)
※実線又は棒グラフが本年値, 点線は平年値。

2 生育状況(4月11日現在)

- ・草丈は17.2cmで平年比78%(平年差-4.7cm)となりましたが、茎数は1519本/m²で平年比165%と平年を大きく上回る結果となりました。
- ・幼穂長は2.2mm(平年差-0.2mm)と平年より生育がわずかに遅れています。
- ・雑草の発生は見られませんでした。

表1 生育調査ほの生育調査結果

地区名 品種名	播種日			草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			幼穂長 (mm)		
	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
古川 シラネコムギ	10/30	+14	+7	17.2	64%	78%	1519	146%	165%	2.2	-0.5	-0.2

※平年差(比)は、過去5か年(平成29年~令和3年産)の平均値との比較。



写真1 シラネコムギの生育状況(左:3月18日調査,右:4月11日調査)

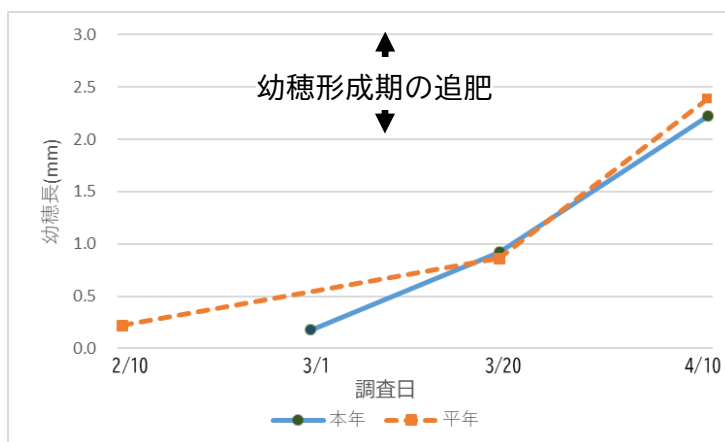


図2 生育調査ほにおける幼穂長の推移

3 今後の生育ステージの見通し

- ・今後の生育ステージは、減数分裂期・出穂期ともに平年より3日遅くなり、開花期は5月22日頃と予測されます。
- ・仙台管区气象台による向こう1か月の天候では、気温がかなり高くなる見込みです。追肥の適期を逃さないよう、今後の生育状況に注意しましょう。

表2 幼穂長による生育ステージ予測

地区名 品種名	播種日			減数分裂期			出穂期			開花期
	本年	前年差	平年差	本年予測	前年差	平年差	本年予測	前年差	平年差	本年予測
古川 シラネコムギ	10/30	+14	+7	5/4	+6	+3	5/13	+5	+3	5/22

- ※1 平年差は、過去5か年（平成29年～令和3年産）の平均値との比較。
- ※2 普及に移す技術第91号（麦類の生育ステージ予測シート）をもとに予測。
- ※3 栽培管理上の目安であり、実際の生育ステージは今後の気象条件によって変動あり。

4 今後の管理

(1)追肥

収量・品質向上のために追肥が必要となります。実際に幼穂長や葉耳間長を測定することで、適期の追肥を心がけましょう。

表3 追肥時期と施肥量の目安（シラネコムギ）

追肥の時期	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30～50mm)	穂揃期 (8～9割出穂)
目的	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	子実タンパク質含有率 の向上
追肥時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
N成分量 (kg/10a)	2.5	2.5～5	2.5
硫安の場合 (kg/10a)	12	12～24	12
尿素の場合 (kg/10a)	5.4	5.4～11	5.4

※上表は目安です。生育量に応じて施肥量を調節しましょう。

【幼穂長の測定方法】

- 1) 生育中庸な株の長い茎を3本以上採取する。
- 2) 茎の膨らんでいる部分を手で剥く、またはカッターで縦方向に切り裂く。
※勢いよくやると幼穂がちぎれてしまうので慎重に。
- 3) 茎の中心部分にある幼穂の長さを計測する。
※芒は幼穂長に含めない。



写真2 幼穂(4月11日)

～ 減数分裂期の判断方法(シラネコムギ) ～

小麦の減数分裂期の目安は、幼穂長30～50mmであり、止葉葉耳間長から幼穂長を推定し、減数分裂期の追肥時期の目安とすることができます。小麦(シラネコムギ)では、「止葉葉耳間長±0mm以上の茎が4～5割」が目安となります。

幼穂長	30mm	40mm	50mm
葉耳間長	-30mm	+3mm	+30mm

図3 葉耳間長の形態的推移

(2)赤かび病防除

・赤かび病とは？

赤かび病は、穂の一部あるいは全部が褐色となる病害です。発生源は、主に汚染種子内の菌糸や被害わら、こぼれた麦上に形成された病原菌(子のう殻)です。赤かび病は開花期が最も感染しやすく、開花期に降雨が多いと発生しやすくなります。

・赤かび病の防除体系

赤かび病防除は2回の薬剤防除が基本になります。1回目の防除は「開花始期～開花期」、2回目の防除を「1回目の7～10日後」に行いましょう。2回防除後に降雨が続く場合は、蔓延のおそれがあるため追加防除を行いましょう。

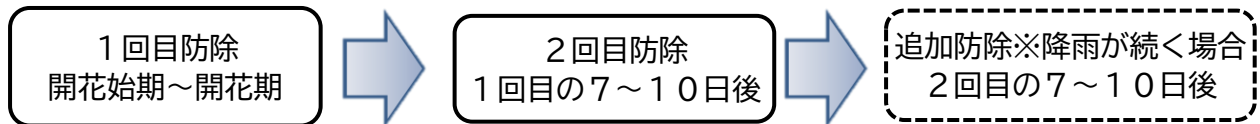


図4 赤かび病防除体系

(3)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。節間伸長期から登熟期にかけては特に要注意で、一般に地温が上昇してからの被害は大きくなります。ほ場に水を停滞させないように排水対策を徹底しましょう。

- ・明きよ…手直し、管理機等で溝を作り、排水口まで繋げましょう。
前作水稲ほ場では、稲わら等が排水口に詰まっていないか確認しましょう。
- ・暗きよ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。
- ・湿害の影響
 - 節間伸長期～出穂
根の機能障害、弱小分げつの枯死、穂数の減少、穂の縮小化。
 - 出穂期以降
粒の充実不良のため千粒重が軽くなり、収量・品質が低下、稈の伸長抑制。

東北地方 1 か月予報

(4月16日から5月15日までの天候見通し)

令和4年4月14日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

2週目は気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は高い確率60%です。降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	20	40	40
2週目	東北地方	10	20	70
3～4週目	東北地方	20	40	40

◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中(4月1日～6月30日)◆◆◆◆◆

農業の死亡事故の割合は高く、宮城県内においても農作業事故は多く発生しています。過去10年間の宮城県の農作業死亡事故の発生状況をみると、60歳以上が全体の90%を占めており、死亡事故の過半数はトラクターが原因となっています。そのため、シートベルトの着用を徹底し、死亡事故の発生を抑えるように努めましょう。

スローガン 「しめよう！シートベルト」